

事務事業評価表（平成30年度）

事業コード	301	課コード	0402	会計種別	一般会計	予算の種類	<input type="checkbox"/> 政策 <input checked="" type="checkbox"/> 経常 <input type="checkbox"/> なし
-------	-----	------	------	------	------	-------	--

1. 事業の概要 (PLAN)											
(1) 事業概要	①事業名	基本事業 個別事業 ふれあい工房の運営管理事業	実施計画への位置づけ	○有 ●無		②部課名	環境経済部・クリーンセンター				
	③事業主体	●市 ○その他 ()		④対象地区	○我孫子 ○天王台 ○湖北 ○新木 ○布佐 ■全市						
	⑤事業期間	平成11年度 ~		⑥担当職員数	1人 (換算人数) 0.1人						
	⑦事業費 (人件費含む)	総事業費	0千円		当該(開始)年度	(当初)	8,766千円 (うち人件費 880千円)		(変更後)	8,208千円 (うち人件費 880千円)	
	⑧施策の位置づけ	施策コード	12102	重点プロジェクトへの位置づけ	重点1		基本計画地区別計画への位置づけ	○有 ●無		部門別計画への位置づけ	(計画名)
(2) 目的	施策目的・展開方向	資源を大切に、資源の循環を進め暮らしを実現するため、市民、事業者、市が一体となって、総ごみ排出量の削減と福島第一原発事故以前の全国トップレベルの資源化率を回復するとともに、新たな廃棄物処理施設の整備に合わせた効果的なごみと資源の分別の研究などに取り組み、ごみの発生抑制を軸と			事業目的	高齢者の地域交流と社会参加という福祉施策のひとつ。リサイクル活動を通して、高齢者の交流及び社会参加への機会の拡大を図る観点とする。高齢者によるリサイクル技術指導や環境学習の場として市民もリサイクルを通して地域活動に参画するための拠点とする。					
(3) 事業内容	内容	資源を大切に、資源の循環を進め暮らしを実現するため、市民、事業者、市が一体となって、総ごみ排出量の削減と福島第一原発事故以前の全国トップレベルの資源化率を回復するとともに、新たな廃棄物処理施設の整備に合わせた効果的なごみと資源の分別の研究などに取り組み、ごみの発生抑制を軸と			当該年度執行計画	施設の作業環境の維持管理 健康障害が生ずる恐れのある作業環境を、快適な状態で維持管理するため、施設の整備を行う。 事業計画 ○ 家具等の販売 ○ 技術アドバイザーの技術指導 ○ フリーマーケット					
		当該年度活動結果指標	家具等の再生利用量	単位	%	想定値	40		実績値	1	
(4) 達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)			指標種類	指標		単位	(5) 現況値	(6) 目標値		
当該年度	一般家庭から排出された家具等をふれあい工房に搬入し、必要に応じ修理・解体・再生を行うことにより、家具等の再生利用が図られ、かつ、可燃ごみの減量と再生利用による市民の意識の向上を図ることができる。			直接	家具等の再生率		%	60	65		
平成31年度	同上			直接	同上		%		65		
令和2年度	同上			直接	同上		%		65		
(7) 事業実施上の課題と対応	粗大ごみである元来耐久消費財であった家具等が、近年の大量生産により安価で耐久消費財とは言えない商品が多くなり、再利用や再生利用が難しくなっている。このため、修理して販売できる商品が少ないことや木工の材料となる部材を市以外から調達しなければならぬこともあり、ふれあい工房本来の趣旨から逸脱した事業をせざるを得ない状況である。			代替案検討	●有 ○無						
(8) 施行事項	実施内容 費用	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度			
		政策	内容	金額(千円)	政策	内容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策	内容	金額(千円)
		政策	内容	金額(千円)	政策	内容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策	内容	金額(千円)
		政策	内容	金額(千円)	政策	内容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策	内容	金額(千円)
		政策	内容	金額(千円)	政策	内容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策	内容	金額(千円)
(9) 財源内訳	予算(決算)額	合計	7,809	合計	7,328	7,170	合計	6,870	合計	6,905	
(10) 人件費等	国庫支出金	補助率	0%	0	補助率	0%	0	補助率	0%	0	
	県支出金	補助率	0%	0	補助率	0%	0	補助率	0%	0	
	起債	充当率	0%	0	充当率	0%	0	充当率	0%	0	
	一般財源		7,809		7,328	7,170		6,870		6,905	
	その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	
換算人数(人)		0.1		0.1	0.1		0.1		0.1		
正職員人件費		880		880	880		880		880		
嘱託職員報酬額		1,146		222	222		222		222		
臨時職員賃金額		0		0	0		0		0		
事業費(予算(決算)額+正職員人件費)		8,689		8,208	8,050		7,750		7,785		
(11) 単位費用 (事業費/活動結果指標)		217.23千円/%		205.2千円/%	8,050						

2. 事業の評価 (DO+CHECK)									
評価項目	事前評価				事後評価(評価結果に応じ、改善案検討(拡充も含む))				改善検討
(1) 事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	・市では、資源循環型社会を目指すため、市民に自主的なリサイクル活動の場を提供することにより、地域住民及び高齢者の地域社会、社会参加の機会の拡大を図るとともに、あたたかみのある地域福祉を創造していくうえで必要である。 ・市のごみの減量とリサイクルに係る施策を展開していくうえで、有効である。				○①事前確認での想定どおり ●②事前確認での想定どおりでなかった				●要 ○不要
	(2) 市が実施する必要性はあるか？(市実施の必要性)	●①民間企業、NPO、市民団体等では実施できない(理由) □法令等で市が実施することが定められている ■提供主体が市しかない □その他		<その他の内容>		<想定どおりとした理由/想定どおりでなかった原因> リサイクル教室や不用品情報提供サービス、子どもの夏休み体験フェスタ、フリーマーケットなどは想定どおり実施できたが、再生家具の販売がうまくいかず、ごみ発生量が資源化量を上回ったため ■①民間企業、NPO、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 <その他の内容>			
参加・協働の工夫	参加・協働の内容		工夫の具体的な内容		実施した参加・協働の具体的な内容(又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容)		参加・協働の程度・内容		
	○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 <その他の内容>		技術アドバイザーは市民の中から選ばれ委嘱される。		市が粗大ごみとして排出された家具を持ち込み、技術アドバイザーで構成するふれあい工房運営協議会が再生して販売する。		○①当初期待した以上 ○②当初期待したとおり ●③当初の期待以下 <期待した以上となった理由/期待以下であった原因> 再生家具の販売がうまくいかず、残量が資源化量を上回ったため		
環境への配慮	配慮の視点		取組む内容		実施した具体的な内容		環境への配慮		
	□①自然環境を生かしている □②生き物と共存している □③手賀沼を意識している ■④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 <その他の内容>		大きな開口部を利用し、出来る限り空調設備に頼らないようにしている。		空調設備の利用を制限した。		●①想定どおり ○②想定どおりでなかった <想定どおりでなかった原因>		
(1) 目標設定は適切か？	現況値(a)(%)	目標値(b)(%)	目標値の妥当性のチェック		達成状況	達成率(%)		●①目標値達成 ●②目標値未達成	
	60	65	□①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象がある場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である		実績値(f)(%)	1.54		<目標を達成した理由/未達成となった原因> 再生家具の販売がうまくいかず、ごみ発生量が資源化量を上回ったため。実際には資源化量(248kg)、ごみ発生量(1,412kg)	
(2) 事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減		実施予定の対策		実施状況		事業費の削減対策について		
	事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	□①国・県助成制度活用 □⑤PFI等民間資本の活用 □②現有体制での対応 ■⑥受益者負担 ■③維持管理費の削減策の実施 □⑦その他 ■④民間委託		実績値(g)(千円)	98.08		○①想定事業費未済 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった <想定どおり削減できなかった原因>	
(3) 目標値を実現するために投じる事業費は適正か？(目標対費用)	目標値対事業費(e)		計算方法		達成状況		●①目標値以上 ○②目標値と同程度 ●③目標値以下		
	7.92	100万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位/事業費 ○②複数年度の指標：(目標値-現況値)×費用単位/事業費		実績値(h)	1.52		<目標値以上となった理由/目標値以下であった原因> ごみ発生量が資源化量を上回ったため	

3. 事後評価										
●現状どおり推進 ○拡充 ○縮小 ○結合 ○休止 ○廃止 ○事業手法見直し ○その他(事業完了など)										
評価	評価コメント				改善策及び展開方向					
	木製家具の再生による資源化が行き詰っており、新たな資源化品目への取り組みが求められる。									